

特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第 12 条、法施行規則第 56 条）

〔PCT 36 条及び PCT 規則 70〕

REC'D 16 MAR 2006

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 PC04Y03	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/015916	国際出願日 (日.月.年) 27. 10. 2004	優先日 (日.月.年) 31. 10. 2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. A47L13/18(2006.01), D04H1/54(2006.01)		
出願人 (氏名又は名称) 山田 菊夫		

1. この報告書は、PCT 35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条 (PCT 36 条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a. ☐ 附属書類は全部で ページである。

☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)

☐ 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b. ☐ 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。
(実施細則第 802 号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

☒ 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎

☐ 第 II 欄 優先権

☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成

☐ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如

☒ 第 V 欄 PCT 35 条(2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明

☐ 第 VI 欄 ある種の引用文献

☐ 第 VII 欄 国際出願の不備

☒ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 24. 08. 2005	国際予備審査報告を作成した日 01. 03. 2006	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 久保 克彦	3 K 3 6 2 4
電話番号 03-3581-1101 内線 3332		

様式 PCT/IPEA/409 (表紙) (2005 年 4 月)

第I欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- ☒ 出願時の言語による国際出願
- ☐ 出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
- ☐ 国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
- ☐ 国際公開 (PCT規則12.4(a))
- ☐ 国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの

第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
- ☐ 請求の範囲 第 _____ 項
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図
- ☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
- ☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
- ☐ 請求の範囲 第 _____ 項
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図
- ☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
- ☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1-10	有
	請求の範囲	無
進歩性 (IS)	請求の範囲 9	有
	請求の範囲 1-8, 10	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1-10	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

文献1: J P 1999-276402 A (ユニ・チャーム株式会社)
12. 10. 1999, 段落【0011】～【0024】, 全図
文献2: J P 2000-201876 A (宗 正雄)
25. 07. 2000, 全文, 全図

請求の範囲1-8, 10に係る発明は、文献1及び文献2により進歩性を有しない。

文献1には、ホルダーを挿入できるようにした基材シート3の上に、多数の繊維若しくは短冊状フィルム（例えば、不織布）を互いに重なるように熱融着した清掃用モップが記載されている。

また、様々な太さの繊維若しくは短冊状フィルムを組み合わせ使用することも記載されており（文献1の図2(c)等）、請求の範囲5-8で「フリンジ帯」、「多数の繊維を束ねてなる繊維体」を両方設けている点に相当する。さらに、繊維の素材として、いくつかの物質が記載されており、吸水性を有する繊維も例示されている。

文献2には、略長形状の不織布に対し該不織布の一方の縁より他方の縁の近傍に至る多数の切り込みを設けた清掃片を多数取り付け付けた清掃用具が記載されている。

第Ⅷ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 1, 4, 5, 6, 8 の記載「清掃具本体の面部」又は「面部」は、不明瞭である。

出願人は 2005 年 12 月 19 日付の答弁書で「面部」は明瞭である旨を主張している。しかし、請求の範囲 1 に係る発明が、挿入部を備えていることから面部が複数あることは明らかであり、その全ての面を指す語として、「面部」を用いているのか、被清掃面に接触させる面のみを指して「面部」を用いているのかが、不明瞭である。

請求の範囲 9 の記載「フリンジ帯を融着する面部の背面」は不明瞭である。

出願人は 2005 年 12 月 19 日付の答弁書で、「フリンジ帯を融着する面部の背面」は明瞭である旨を主張している。しかし、図 1 に示すような形状を例に取れば、面部を清掃具の面と捉えた場合と、面部をシート体（図 1 では（7）とされている部材）の面と捉えた場合では、背面となる面が異なる。してみれば、「フリンジ帯を融着する面部の背面」は不明瞭である。